



〈学校教育目標〉 明るく さわやかな子の育成

さいたま市立芝原小学校

さいたま市緑区芝原2丁目5番地

TEL 873-4133 FAX 810-1123

Web <http://shibahara-e.saitama-city.ed.jp>

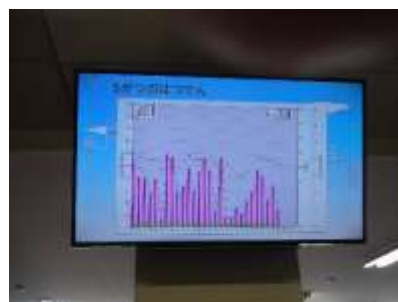
特別な年に

校長 吉岡 貴和

5月7日になれば、子どもたちの元気な声が戻ってくる。そう思って全国に広がった緊急事態宣言の中、芝原小学校の教職員は一生懸命児童を迎える準備を進めてきました。しかし、現状はお子さんを安全・安心にお預かりするまでには回復せず、引き続きの臨時休業が決まりました。令和2年度の真のスタートはもう少しの辛抱のあとになります。

3月から数えるとおよそ3ヶ月、いつまで続くのか不安なままですが学校は主役が戻ってくるのを待っています。皆さんももう少しの間、家で学習や運動を進めながら健康に気を付けて過ごして下さい。今年はきっといつもの1年とは違った1年になると思いますが、工夫して良い意味で特別な年にしていきたいと思います。

さて今回の新型コロナウイルスに関して私が感じたことのひとつが、世界との距離感です。日本から遠く離れた世界各地の情報が、時々刻々とTVのニュースや掌の携帯に送られてきます。そしてその情報が病気に関する知識や、暮らしの基盤を作るために共有され、新しい価値を生み出していきます。これはこれからの教育でも重要とされるソサエティ5.0時代の感覚です。我々の世代が、パスポートを持ち何時間もの飛行で移動してたどり着いた外国との隔たりを一瞬で飛び越え、双方向で情報を交換し合う。今の小学生は何の躊躇もなくその環境に入っていきます。Webコンテンツによる学習も、今の児童にとってはまもなく当たり前になるのかもしれませんが、もちろん実際に時間をかけてその地に立ち、感じることは、データとして得られる情報や、バーチャルリアリティのそれとは違うと思いますが、可能性はいつそう広がっているなど感じます。



2階昇降口の太陽光発電モニター

昔、東京からの所要時間で描いた日本地図というのが教科書に載っていました。見慣れた日本地図が大きく変形し、交通網が発達している都市は東京のすぐ近くにかかれ、面白いと思いました。令和の今ならば世界中の街や、空に浮かぶ月までも、すぐ近くに描かれているかもしれません。